



新板  
八

小兒疳積傳方氣

記



遠  
1657  
4



小田本紀實氣卷之四

郷食庭文庫

藏書

小兒乃河々風雅を收む福屋の長壽壽が

乃其大いしめぬさ心

附り我があぐたのしむ花人の歌を幸ふと云

吾そらきたる内合のゆたひ

花のたれ娘といつてもやうぬ町々。まけく度くはしそ  
ゆたは能く西の條通へ橋屋の碑記とそま本を花の歌に力  
賜ふれ好歌小歌事いふや、こくかきとふりそるるは  
人なけりる名花の佳し人少し朽かきと能くあ代とたゆ人  
破人小いさそふ家曜が寫し方支帰乃中ふ七のやぬ娘



小田本紀實氣卷之四



さへ増くけり葉はくぬけ樹は私に新の研磨す  
てけひおし敷のる花前を風雅な城より門下柳屋むか  
むく細千も居たはく新苗はよりいふふくしおとを  
氣とあひあしけのや由を素じと紙をへくちそよ  
てもとんか合ども柳屋のや由を新紙をむかふの紙を  
ぞよこいふふまはくおと。もと新し一盤飲ふとれ中房の  
みんつてたこととそと柳屋に紙をひもとの紙を  
紙はしんぬ面白くあはれしひの紙をいぬもく  
ふの城はと進尺すきも新紙をむかふ酒の間  
まがたるとそよ新柳屋の一日飲ふれ新紙の音の紙

手ぶはふし西なりすんとくし出舟中具乃ぬる黄柳や  
合人しちち飲西何と流舟ハし出入の魚屋がたづねる  
かコリヤ長氣能くあそびてきたま新紙く新紙くそとれし  
のむ向ハ城まが風雅な事よたかろ宿で居るし新紙の心  
あハ端をとて面白うかい進めく新紙く新紙もあそび新  
古紙を城も興へこいそも新紙を新紙く新紙く新紙く  
そと新紙く新紙く新紙く新紙く新紙く新紙く新紙く  
一向流のちま新し向ひの久ま新し新紙く新紙く新紙く  
新紙はけりしりて新紙く新紙く新紙く新紙く新紙く  
志ま新し久ま新し中戸はより新紙く新紙く新紙く新紙く



わしの酒盛り一婦人若く者度がわすれすもを流の長きが亦  
ともし向ひの久き氣が初三度深ひきさるる肉成さぬく  
うそひ出せ。ちりか娘が夜く七松山毎一足先へ一舞を  
まふかりとあふとけ酒で樂研花二親の氣風一列  
昔清し婦舟年月れまハ矢のどく子花のちきあぬも  
ちく娘とすちりけあがを治人あそ縁組のお徳亮  
下系しく刀服者の少長具と高ふ七本屋の令助とあふ  
婿入り一が舞ハサニ一女能男男は小姑一人匠がち  
銘りまをせけ娘ハもあやが場も女風が好しくけお梅が  
てうど船一入ど舞ハ先まきし新祝の四角同ころうさか

似く思あ事肉場はして町をちりしとせむの町守と女  
あ月く別深とまねアさうがど親一入ど一白年とまぬ  
中一あ娘一侍し之と母の親一入く梅子ゆひしけ  
軒しひきしものもと。舞し言してま年程とまけるけい梅  
があてよりころりけ娘の親が場もあぬかりとあふの介  
と酒を飲とせしつと西まアのまね梅一音新妓夜まの  
おまかちのあひののと舞さるるまじりしと集て不  
舞しやくし肉と事屋のたぬの梅はして好くあふと  
が舞も風俗一ぬくお心なあしす。彼ころうさ女氣の  
とあふ今分け梅とておあしくあふとあふもあ肩とあふさう

とよと母の持煙たきふ烈く肉く少く女房一掃の事  
しつたおとろいしくと笑ひし飲中申でうんとおとろた  
事かく嫁が里の二親よりしてしら事もおまぬハも  
同じ場おほるやえんかやと笑ひしうらら心事  
りたささるおとろいしくお事切なるをさしお涙けり  
いも女持煙のつらとてとてとてとてとてとてとてとて  
しそやのハ婚ハ婚とてとてとてとてとてとてとてとて  
とととけ。うううい事の掃りんどそとせら山くたし  
の掃り。それと考妙を笑りうららとてとてとてとてとて  
婚のつらとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

行でたらし。極細糸よして懐中入金を紙の掃りか  
袋の能夜ておとろいしく情へ思ひゆきいふ人婚の材の掃中  
新おとろいしく口の肉く少くとてとてとてとてとてとて  
激しと人おとろいしくおとろいしくおとろいしくおとろいしく  
い物をしてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
もハおとろいしくいおとろいしくおとろいしくおとろいしく  
ぬえおとろいしくおとろいしくおとろいしくおとろいしく  
中の思ひとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
やの婚場可とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて  
隠すのうらおとろいしくおとろいしくおとろいしくおとろいしく





四たうきをぬきくき人すれかをたのむらんバ嫁が  
此のわしと縁を断れお母様目書方ぬきこく  
ききしただ布子の神よき程中たりはたときもふくの乳  
あふ今冬へ厚しお母さまお暇をむかへ嫁と祈る時  
甲しお母さまおとちからわしへいへ今冬もいふ  
あつたお母さまおとちから縁を断れきこてんはした  
てわしをせんとしお母さまの息がたぬくもらう  
お母さまおとちからわいおどくも。お母さまおとち  
おの志だしお母さまの古布子よかぬかぬかぬかぬか  
あつたお母さまおとちからわしへいへ他人のおど  
をひししお母さまおとちからわしへいへ他人のおど

お母さまのわしと縁を断れお母さま目書方ぬきこく  
ききしただ布子の神よき程中たりはたときもふくの乳  
あふ今冬へ厚しお母さまお暇をむかへ嫁と祈る時  
甲しお母さまおとちからわしへいへ今冬もいふ  
あつたお母さまおとちから縁を断れきこてんはした  
てわしをせんとしお母さまの息がたぬくもらう  
お母さまおとちからわいおどくも。お母さまおとち  
おの志だしお母さまの古布子よかぬかぬかぬかぬか  
あつたお母さまおとちからわしへいへ他人のおど  
をひししお母さまおとちからわしへいへ他人のおど

千七百六十四

八

まほしき物(も)のふりてアキ酒(さ)を自(みづか)母(はは)親(お)おさん  
あはれあはれとてさどけしはるのほろやまゆりかへさ  
おさんおさんあらぬのゆりかへさ  
おさんおさんあらぬのゆりかへさ  
おさんおさんあらぬのゆりかへさ  
おさんおさんあらぬのゆりかへさ  
おさんおさんあらぬのゆりかへさ  
おさんおさんあらぬのゆりかへさ  
おさんおさんあらぬのゆりかへさ  
おさんおさんあらぬのゆりかへさ  
おさんおさんあらぬのゆりかへさ

彼(か)積(せき)屋(や)と神(かみ)一(ひと)包(た)と足(あ)づいて  
茶(ちや)一(ひと)包(た)と足(あ)づいて  
茶(ちや)一(ひと)包(た)と足(あ)づいて  
茶(ちや)一(ひと)包(た)と足(あ)づいて  
茶(ちや)一(ひと)包(た)と足(あ)づいて  
茶(ちや)一(ひと)包(た)と足(あ)づいて  
茶(ちや)一(ひと)包(た)と足(あ)づいて  
茶(ちや)一(ひと)包(た)と足(あ)づいて  
茶(ちや)一(ひと)包(た)と足(あ)づいて  
茶(ちや)一(ひと)包(た)と足(あ)づいて

今(いま)世(よ)の看(み)夜(よ)ハ妙(た)くはなひより  
有(あ)りておきひ今(いま)世(よ)の看(み)夜(よ)ハ妙(た)くはなひより

附(つ)き世(よ)の看(み)夜(よ)ハ妙(た)くはなひより  
有(あ)りておきひ今(いま)世(よ)の看(み)夜(よ)ハ妙(た)くはなひより

おとせ世(よ)の看(み)夜(よ)ハ妙(た)くはなひより  
有(あ)りておきひ今(いま)世(よ)の看(み)夜(よ)ハ妙(た)くはなひより  
おとせ世(よ)の看(み)夜(よ)ハ妙(た)くはなひより  
有(あ)りておきひ今(いま)世(よ)の看(み)夜(よ)ハ妙(た)くはなひより

おとせ世(よ)の看(み)夜(よ)ハ妙(た)くはなひより  
有(あ)りておきひ今(いま)世(よ)の看(み)夜(よ)ハ妙(た)くはなひより

合し後後種しその樂院居舟助が才とけし居貴少也  
 一り指し今入りし指と悪すぬ六内此のせりか居  
 らんばぬ根の根よえ附しきけしふとん事飲  
 飲りあらし氣質あふかさるだれ飲所はして七十を飲  
 飲り此指居とハ細末しそ別ハ癩癩病の所茶とやし  
 一りと飲しんわ去年の表宣番海での後我指居と  
 出しん病しを指細系はしてけし根を瓜か下ハ移し  
 指白の酒よく飲すすまとははしし子ゆき指しん  
 来り指かふ了は茶の病長時のらんを方ハは下  
 へ有りて茶の淨利さるふ女ハ分別の酒の女助し

出したるう世より能か減し淨利するうハ知ら指し事  
 町しれ酒とすハ癩癩の如茶の茶種七味入肉味  
 七を茶の酒もく菌もは眼も能祖母の指居入有  
 指の具居乃祖母七七九年町内の名は茶の方とそ  
 居るあしりいふ指がしん指居悪すて祖母も息子も指と  
 立たか指居し加くそは居のいしゆりとの指居  
 一りを町守を合れとく指居し文と指居し礼しん  
 そしん指居の指居く居る癩癩の如茶七味酒合の方書  
 と指居しやハは指居。そそハ我家内の名ハ癩癩育て男  
 指居し此ハハ一りも指居し事別し一礼書て町





友のえが少とをばと分狭子天麻の柳をれ一つも葉あり柳  
小して紅をて物看する旅葉とらやる病入り人ひひと  
去がらんよあしして修心一室も静室を(息子の)成之録  
すもやんあまの天運順微して秘苑始の秘苑も急録志  
はめいえ対もたるりもを(息子の)成之録  
けりもあしすもりも代と抱うたをと貴らあをり  
か今初より名もひい西勢散と看とあ(息子の)成之録  
十人もあまもあ(昔始り)常て(息子の)成之録  
中へ(息子の)成之録とあ(息子の)成之録  
の(息子の)成之録とあ(息子の)成之録

親味親味の能は合かんも有あし(息子の)成之録  
すもやんあまの天運順微して秘苑始の秘苑も急録志  
はめいえ対もたるりもを(息子の)成之録  
けりもあしすもりも代と抱うたをと貴らあをり  
か今初より名もひい西勢散と看とあ(息子の)成之録  
十人もあまもあ(昔始り)常て(息子の)成之録  
中へ(息子の)成之録とあ(息子の)成之録  
の(息子の)成之録とあ(息子の)成之録

小見本世後傳新巻之四

